



蔭草(かげくさ)の 生ひたる宿の 夕影に 鳴くこほろぎは 聞けど飽かぬかも

9月の万葉集 巻10-2159 詠み人知らず
(蔭草が生い茂っている庭先の、夕方のかすかな光の中で
鳴いているこおろぎの声は、いくら聞いても飽きることがない)

鳴く虫の声に耳を傾けて季節を感じてみては！

9月に入り、朝夕は少し気温が低くなり過ごしやすくなりました。ただ、日中はまだまだ暑く残暑が厳しい状況です。

新型コロナウイルス感染症も第7波として依然、感染者数が高止まりの状態です。何とかもう少し早く収束に向かってくれないかと日々祈っているところです。

学校園も8月25日(木)に2学期の始業式を迎えてから、早2週間が経ち、校舎や園舎、運動場からは子どもたちの元気な声が聞こえて来ます。今年度は運動会や体育大会、文化鑑賞会などの学校園行事をしっかりと進めてほしいと言っています。私はこの学校園行事において、子どもたちが主人公となり、いろいろな経験をする中で「練習などをしたががんばった結果、やり遂げられた」とか「みんなと一緒にやりきれた」などの成功感・成就感をもった時、そこには必ず自尊心や自己肯定感が高まると思っています。コロナ禍ではありますが、この2学期こそ、さらなる子どもたちの成長を期待したいと思います。

ところで、未だに暑い日々が続いていますが、季節は明らかに秋になってきています。薄暮の時間には家々の庭や草むらから鳴く虫の声が聞こえ始めます。鳴く虫の声を聞くとなぜか涼しさが感じられるのは私だけではないと思います。



上記の万葉集にも書きましたが、秋に鳴く虫といえば、黒褐色の小さな「コオロギ」を思い浮かべる人も多いと思います。しかし、この虫は、昔、別の名前と呼ばれていたようです。それは「キリギリス」です。キリギリスといえば緑色のバッタのような虫で、コオロギとは似ても似つかぬ姿形です。コオロギがキリギリスだったのなら、キリギリスはいったい何だったのでしょうか。

日本最大の国語辞典「日本国語大辞典第2版」(小学館)でコオロギを引いてみると、「(1)古く、秋鳴く虫の総称。(2)バッタ(直翅)目コオロギ科に属する昆虫の総称。〈中略〉古くは『きりぎりす』といった」と。さらにはキリギリスの項目に、「(1)昆虫『こおろぎ(蟋蟀)』の古名」。そして、こんな虫の名前も見つかっています。「はたおり【機織】=(2)昆虫『きりぎりす(蝻斯)』の古名」と書いています。要するに、古くはコオロギのことをキリギリスと呼び、キリギリスのことをハタオリと呼んでいたということです。10世紀に成立した古今和歌集にこんな歌があります。

秋風に 綻(ほころ)びぬらし 藤袴(ふじばかま)

つづりさせてふ きりぎりす鳴く

「つづりさせ(つづれよ、刺せよ)」とキリギリスが鳴いていると詠っていますが、「つづりさせ」は、実はコオロギの鳴き声を指しています。江戸時代の俳文集「山の井」に「つづりさせとなくこほろぎの音にわび」と書かれていて、ツヅレサセコオロギというコオロギの種類もいることからその証拠となります。

ちなみに、コオロギとキリギリスの違いはと聞かれると、一般的にはコオロギの仲間は体高が低く、やや扁平で黒褐色、地面を這っている虫です。キリギリスの仲間は体高が高く、体幅が狭く、緑色で草むらなどにいるとされています。ただ、コオロギの仲間なのに緑色で、樹上にいるアオマツムシや草むらにいるカンタンなど、色やすみかで区別できないものも多数います。また、鳴き方はコオロギの仲間で右羽根を上にして左羽根を下にして羽根をこすり合わせて鳴くに対して、キリギリスの仲間は左羽根を上にして右羽根を下にしてこすり合わせて鳴きます。このようにコオロギとキリギリスには違いがありますが、その鳴き声には秋という季節を感じます。下に代表的な鳴く虫とその鳴き声を示します。

コオロギ科

エンマコオロギ・・・コロコロリー・コロコロリー
ツヅレサセコオロギ・・・リィリィリィリィ
スズムシ・・・リーンリーンリーン
マツムシ・・・チンチロリン・チンチロリン
アオマツムシ・・・リーリーリーリーリー
カンタン・・・ローローロー
カネタタキ・・・チンチンチン



スズムシ

キリギリス科

キリギリス・・・チョン・ギース、チョン・ギース
ツコムシ・・・ピチッ ピチッ ピチチチ
クビキリギリス・・・チリチリッチッチッチッ・・・ヂヂヂ
クツワムシ・・・ガチャガチャガチャ
ウマオイ・・・スーチョン、スーチョン
クサキリ・・・ヂー、ヂー
ササキリ・・・シリシリシリ、シリシリシリ



クツワムシ

以上のように、虫の鳴き声をカタカナ表記していますが、実際に家の近くでその鳴き声を聞いて、どの虫が鳴いているのかを聞き分けるのはとても難しいです。ただ、この時期、庭の木やサクラ、ウメ、カキなどのバラ科の木の上からリーリーリーリーと聞こえるのは間違いなくアオマツムシです。



アオマツムシ

このたよりを読まれた方は、一度鳴いている虫の声に耳を傾けてみてはどうでしょうか。きっと、涼しさを感じ、秋を感じることができるとと思います。

裏面へ

教育委員会関係団体の取組

3年ぶりに古文化会研究発表会が開催される！

8月28日(日)にかぐや姫ホールで3年ぶりとなる広陵古文化会の研究発表会が開催されました。今回は、「新たな奈良県指定文化財『瑞夢記』の世界」と題して、奈良県文化財保存課の山田淳平氏に講演をしていただきました。



「瑞夢記」は大福寺に所蔵されていて、新たに今年の3月25日に奈良県指定有形文化財(書籍・典籍)に指定されました。今回指定されたポイントとして、大福寺以外に伝本が確認されていない珍しい写本であること(典籍の希少性)、中世大和の社会・風俗の様子が生き生きと描かれていること(地域性豊かな歴史資料)、そして「平家物語」などの中世文学の影響が見られること(文学史上の重要性)が挙げられるということです。

「瑞夢記」とは、箸尾弁財天(現・櫛玉比女命神社)に関する説話集で箸尾弁才天の由緒と利益を集成した霊験記であり、全長19メートルに及ぶ長大な巻物で、応長2年(1312)に箸尾在住の僧侶が編纂したものです。また、大福寺に現存するのは、文安元年(1444)の写本であり、鎌倉時代の内容を持つ、室町時代に書かれたものであったようです。



その内容については、上・中・下の3部構成になっていて、上が箸尾弁財天の由緒と沿革が中・下には弁財天の利益と霊験のエピソード集が収められ、弁財天の由緒では、天河弁財天を箸尾の地に分社として勧請されたことや箸尾弁財天が鎮座する塚は、聖徳太子が宇賀神をまつた場所だと書かれ、霊験のエピソードでは、現在の大和郡山市にある稗田の女房が弁財天のご利益で病気が治った話や安堵町窪田の貧しい夫婦が財を成した話など近隣の興味を引く話が数多く収められているようです。

また、様々な登場人物が描かれていて、箸尾の住民のほか、上述の稗田の女房や万歳の僧侶、東山の住民など、大和各地の人々が登場していると話されていました。

この「瑞夢記」には、30話ほどが収められているようで、読み下した話をすべて読んでみたいと思いました。

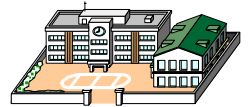
この講演には大福寺の加藤住職も聴きに来ておられ、講演後、山村町長や石井古文化会会長、山田氏、加藤住職と歓談させていただき、講演の感想や「瑞夢記」を如何にして町民の皆さんに広めていくかと言った話で盛り上がりしました。

後日、加藤住職が町長に会いに来られ、昭和54年に町内在住の市村さんが自費出版された「瑞夢記抄」を5冊持ってきていただき、ぜひ、図書館に置いてもらって、一般の人たちにも読

んでもらってほしいということで寄贈していただきました。

この「瑞夢記抄」は、読み下し文として20話が収められているようです。「瑞夢記」に興味ある方は、ぜひ町立図書館に足を運んで「瑞夢記抄」に目を通していただければありがたいです。

学校から



西小学校より

広島への想いを込めて、折り鶴集いが！

8月29日(月)、「折り鶴集会」が行われ、全校児童が平和への想いを込めて色紙で鶴を折りました。この折り鶴は、9月にヒロシマへ修学旅行に出かける6年生に託され、西小学校を代表して「原爆の子の像」に捧げてもらう予定です。折り方が分からない1年生のために6年生が優しく手ほどきをしながら教室をまわってくれました。



真美ヶ丘中学校より

2年生「現地学習会」に水平社博物館へ

2年生で学習している部落問題学習をより深めるため、希望者18名が8月19日午後に御所市柏原へバスで向かいました。



到着後、1時間程度、西光寺・燕神社・水平社宣言記念碑・神武天皇社を見学しました。その後、水平社博物館で調べ学習に取り組みました。今後は、学習した内容をまとめ、他の学年の生徒に報告する予定です。

10月に開催される学校・園の体育大会・運動会の予定

- 10月1日(土) : 広陵東小学校、広陵北小学校
真美ヶ丘第二小学校
- 10月5日(水) : 広陵中学校
真美ヶ丘中学校
- 10月8日(土) : 広陵東小附属幼稚園、広陵西幼稚園
広陵西第二幼稚園、真美ヶ丘第一小附属幼稚園、真美ヶ丘第二小附属幼稚園
広陵北かぐやこども園
- 10月29日(土) : 広陵西小学校、真美ヶ丘第一小学校

感染防止対策を実施しての開催のため、午前中の開催、保護者等の参加も2人までとされています。